

来週の市場とレート予想

	2/9(月)	2/10(火)	2/11(水)	2/12(木)	2/13(金)	
無担保O/N			0.030%	0.125%		
銀行券	+ 1,100	ト ン		+ 1,000	ト ン	
財政他	△ 25,100	△ 9,000		+ 1,000	+ 66,000	
資金需給	不 24,000	不 9,000		余 2,000	余 66,000	
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行(30年)	国庫短期証券発行・償還(6M)	祝日	交付税特会借入・償還	年金定時払い 源泉税揚げ	
オペ期日	共通担保(全店) △ 2,400 CP等買入 △ 300	共通担保(全店) △ 4,700				共通担保(全店) △ 4,900
オペスタート	共通担保(全店) + 2,200 ETF買入 + 300	国債買入 + 11,800 共通担保(全店) + 3,600 CP等買入 + 4,000				
(日本)	森本日銀審議員、講演(千葉) 国際収支(12月) 貸出・預金動向(1月) 特定サービス産業動態統計 (12月) 企業倒産(1月) 景気ウォッチャー調査(1月) 消費動向調査(1月)	マネーストック(1月) 第3次産業活動指数(12月)			機械受注(12月) 企業物価指数(1月) 貸出約定平均金利(12月) 貸出先別貸出金 (四半期調査12月) 工作機械受注(1月)	マネタリーサーベイ(12月) 対外対内証券売買(前週分) 営業毎旬報告(2/10現在) 日本銀行が保有する 国債の銘柄別残高 日本銀行による国庫短期証券 の銘柄別買入額
(海外)	G20財務相・中央銀行会議 (イスタンブール、10日まで) EU外務相理事会(ブリュッセル)	米 卸売在庫(12月) 米 リッチモンド連銀総裁、講演	米 MBA住宅ローン申請指数 米 財政収支(1月) 米 ダラス連銀総裁、講演	米 小売売上高(1月) 米 企業在庫(12月) 米 週間新規失業保険 申請件数	米 輸入物価指数(1月) 米 シガン大学消費者 マインド指数(2月速報)	

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.090 ~ 0.120
SPOT 2M	0.100 ~ 0.125
SPOT 3M	0.110 ~ 0.140
SPOT 6M	0.130 ~ 0.170

<インターバンク>

当座預金残高は週初、181兆円台で始まり、その後は2日の国庫短期証券の発行や4日の法人税揚げ、5日の国債発行等の財政揚げ要因が続いたことで減少し、週末は179兆円台で越週した。無担保コールON物は、週を通して0.07%台前半での取引が中心であったが、試取りの動きから、加重平均金利が0.075%を上回る日も見られた。ターム物は、1~2W物で0.11%台後半の出合が中心であった。4日一部報道で、3月25日に任期が満了する宮尾龍蔵日銀審議委員の後任として、早稲田大学教授の原田泰氏を起用する方向で最終調整に入ったと報じられた。5日は10年債の国債金利が一時0.400%と2014年12月12日以来、約2か月ぶりの水準まで上昇した。

来週の材料は、国内は国際収支(9日)、景気ウォッチャー調査(9日)、海外ではG20財務相・中央銀行会議(9・10日)などが挙げられる。

[オープン市場]

NCD 3M	0.090 ~ 0.120
CP3M(a-1+)	0.085 ~ 0.090
TDB 3M	△0.005 ~ 0.005
現先(on/1w)	0.080 ~ 0.100

<CP>

今週は、発行額は約7200億円と、期落ち額約6900億円(金融機関・ABCP除く)と同程度であった。今週の3M物の入札発行レートは、0.090%台前半~0.110%台後半と、横這い~小幅上昇した。CPの市場残高は、企業の業績回復などによる発行増で2009年以来の高水準となっており、a-1格銘柄のCP入札発行レートは0.090%台半ば以上が定着してきている。現先レートは、0.080%~0.100%程度で推移し、前週比小幅低下した。来週の期落ち額は約5700億円となっている。

<TDB>

5日に国庫短期証券3M第510回債の入札が行われたが、最高落札レートは0.0000%(前回債0.0000%)、平均落札レートは△0.0015%(前回債△0.0027%)と前回債から利回りはほぼ変わらずの結果となった。セカンダリーは3Mで△0.002%近辺の出合い、6Mは△0.008%近辺の地合い、1Yは目立った出合いは見られなかった。来週12日に3Mの入札が行われる予定である。

<レポ>

足許GCは週初から週末まで、先週末と同水準の0.06%近辺での出合で推移した。また週末にかけて短国の入札が二日連続で行われたこともあり、6日には0.09%近辺にレートが上昇し越週した。SCは10年331回債335回債が引き続きON物・ターム物ともに週を通してネガティブレートで推移した。また週末には10年336回債がネガティブレートでの出合となった。5年債は121・122回債、10年債は319・321・325回債に引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。